



愛知教育大学未来共創プラン 戦略3「教職の魅力共創プロジェクト」では、よりよい教育の未来につながる教職の魅力を共に創り出し、発信することを目標としています。

今回は、4名の現職の先生方に日々の仕事で大事にしていることや高校生や大学生に向けたメッセージ等を語っていただきました。

教職の魅力 インタビュー



インタビュー動画

浅生 範子 先生

名古屋市立瑞穂ヶ丘中学校 養護教諭
教職19年目(収録時)



生徒のありのままの姿を認め、 困ったときは一緒に考える

Q 教師になってみて思い描いていた世界とは違ったことは何ですか？ また思ってもみなかった魅力はありますか？

A 私は人と関わることは好きでしたが、実際に養護教諭として中学校で働くまでは胸を張って「子どもが好き!」と言えるか、またそのような気持ちで生徒と関わるができるか不安に感じていました。しかし、中学生と一緒に過ごし彼らの成長や前に進む姿を見てきて、今は「中学生と関わるのが好き!」と心から思えるようになりました。思い描いていたよりもずっと、養護教諭の仕事が好きになっていると思います。生徒が保健室や廊下などで「教室でこんなことがあった」「今はこんなことに興味がある」と日々の些細なことを共有してくれ、一緒に喜んだり悩んだりすることが思ってもみなかった魅力だと感じています。

Q 中学校の養護教諭として大事にしていることを教えてください。また、養護教諭のどのようなところに魅力を感じていますか？

A できる、できないに関わらず、目の前にいる生徒のありのままの姿を認め、いつでも応援していることを伝え、困ったときには一緒に考えるということを大事にしています。その上で、ウェルビーイングとして近頃よく話題になっている、身体の健康・心の健康・人との関わりなど、広い意味での健康の大切さについて伝えていきたいと思っています。ウェルビーイングはよりよい人生を送るためにとても重要なものだと思いますので、中学生にそれを伝えることができる仕事であるということに魅力を感じています。

生徒との様々な違いを 共に生き、楽しむ

Q 高校教師として大事にしていることを教えてください。また高校教師のどのようなところに魅力を感じていますか？

A 私は微妙な「違和感」を大切にしています。長年この仕事を続けていると、生徒と感覚の差を感じる事が徐々に増えてきます。自分は年を取るけど生徒は若いままだから仕方ないですね(笑)。ただこの「違和感」を無視したり気づかないフリをしたりすると、人間関係など様々な面で支障が生じてきます。

年齢だけでなく、私たちは様々な違いを共に生きています。私はその違いを楽しめる教師でありたいし、生徒にも楽しんでもらいたいと思っています。高校生って、違いにとっても敏感なんです。[違和感]から嫌悪感、さらに排除という行動へもつながりやすい。でも「それは違う」「これじゃダメだ」ということを理解して行動に移せるようになるのも高校生の時期です。こうした大きな変化や成長が感じられるのも、高校教師の魅力の1つだと思いますね。

Q 教師を目指している高校生や大学生に向けてメッセージをお願いします。

A 教師って、とてもやりがいのある仕事だと思うんですね。もちろん仕事なので辛いことも苦しいこともたくさんあります。でもこの仕事の素晴らしいところは、その辛さや苦しみから救い出してくれる、癒してくれる、活力に変えてくれる、それもまた生徒だということです。

生徒は常に私を揺さぶる存在であり、私の人生を豊かにしてくれる存在です。「生徒のため」は、実は「私(自分)のため」でもあるんです。皆さんもぜひ教師になって、生徒の、そして自分自身の人生を輝かせてください。

教職の魅力 インタビュー



インタビュー動画

磯部 一美 先生

桜花学園高等学校 教諭
教職27年目(収録時)
教科:国語



教職の魅力 インタビュー



インタビュー動画

佐々 恵 先生

江南市立布袋小学校 校長
教職29年目(収録時)

子どもたちの「できた」 「わかった」をそっと支える

Q 日々の学校運営で 大事にしていることは何ですか？

A 子どもにとって必要なことかどうか、という子どもの目線を大事にしています。そのためにも、先生方が子どもと向き合う時間をいかに作っていくかを考えています。また、地域の皆さんと連携し、協力を得ながら、同じ目線で子どもたちを育てることを大切にしています。

Q 教師を目指している高校生や大学生に向けて メッセージをお願いします

A 人を育てるということは、未来の日本・世界を創造することにつながる壮大な職業ですが、目の前の一人一人に目を向けるととても奥が深い仕事だと感じています。正解はありませんが最適解を目指すために自分自身が学び続ける人であってほしいです。

教師は教えるプロではなく、学びを支えコーディネートするプロだと思います。そのためにも、子どもの目線で学習材(教材)を考えられる視点を大切にしてほしいです。そして、子どもの「わからなさ」に寄り添って支えていく教師になってください。

子ども、保護者と共に という姿勢を大切に

Q 教師を続ける中で直面する困難を どのように乗り越えてきましたか？

A 教師としての経験を重ねる中で対応できるものも増えてはきましたが、色々な困難に今でもぶつかっています。そして、困難に向き合うときにいつも子どもたちと保護者の力が大きいなと思っています。自分一人ですることの方が実は少なく、子どもたちと一緒に、保護者と一緒に考えていくという姿勢が大事だと考えています。

Q 特別支援学級担当として大事にしていることを教えてください。 また、特別支援教育のどのようなところに魅力を感じていますか？

A 中学校ということもあり、特別支援学級の生徒に対しては卒業後の進路を教師がよく理解し、そのために今どんな授業をすべきか、どんなことに取り組ませるべきかを考えなくてはいけないと感じています。大人として社会に参加していくことを見通した目標を生徒や保護者に示しながら、スモールステップで授業や様々な活動を続けていくことが大事だと思っています。私は通常学級を長く担当してきましたが、特別支援学級でもこれまで大事にしてきたことが通じるところもあり、また逆に特別支援で大切にしている個に応じた支援は、通常学級でも大事であると感じたことが良かったと思っています。

教職の魅力 インタビュー



インタビュー動画

嶋津 智子 先生

瀬戸市立にじの丘中学校 教諭
教職24年目(収録時)
教科:国語



国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

編集・発行 /
愛知教育大学 未来共創プラン
戦略3 教職の魅力共創プロジェクト



<https://cocreate.aichi-edu.ac.jp>